

◎ 序 ◎

「近くで遠い国」が、韓国と日本でした。しかし、ビジネスを始め、社会・文化、スポーツなど様々な分野で交流が一段と活発になり、いまや、一番近い国となりつつあります。こういう新しい時代と状況の流れをくんで、本コースはもっとも効果的にハングルの学習ができるよう編集しました。

本コースの第一の目的は、学習者が自分の意思を正確に相手に伝え、理解してもらえるようになることです。したがって、何よりも正確な発音と効率的で洗練された表現に重点を置きました。また、こういう意思表示を支える基礎文法や多用される必須単語が自然に覚えられ、現実の状況でもすぐに使えるよう、実用的な面にも力を入れました。

語学は、自己学習が成功のポイントであると言われています。本コースにおいても初心者が独習に耐えられるように様々な点に心を配りました。以上のことを踏まえて、本コースでは以下のように言葉や表現を厳選しました。

- ◇ 実用性の高い言葉や表現の例文
- ◇ 日本人になじみのある言葉や場面設定
- ◇ 発音の壁を乗り越えられる洗練された言い方

特にハングルの学習において一番難関とされる発音については、できる限り発音しやすい表現になるよう工夫し、カナ表記は [ン] 以外のパッチム（ハングルにおいて、終声になる子音を意味します）はすべて小文字にしました。

ハングルには、「シジャギ パニダ」（始めが半分だ＝始めるのは難しいけど、始めてしまえば半分終わったものと同じ、計画したら躊躇ちゅうちよしないで始めなさいという意味です）ということわざがあります。楽しく、積極的に学習を進めて行けば、きっとハングルでコミュニケーションが取れるようになるでしょう。

著 者

韓国語・朝鮮語とハングル文字

韓国語・朝鮮語とは

韓国語・朝鮮語は、ハングルという文字で表記する言葉です。「韓国語」「朝鮮語」という呼び方が一般的になっています。最近では「ハングル語」という言葉も使われていて、このテキストでもハングルと表現していますが、「ハングル」とは日本語の「カナ」や英語の「アルファベット」のような文字の名前であって言語の名前ではないということだけは理解しておきましょう。

ハングルの使用人口は、大韓民国の人口約 4884 万人、朝鮮民主主義人民共和国の人口約 2300 万人に、中国の朝鮮族・旧ソ連領の中央アジアの朝鮮族・在日の韓国人および朝鮮人・在米韓国人など約 350 万人を含めて、7000 万人を超えるといえます。フランス語やイタリア語とも匹敵する世界の言語使用人口ランク第 15 位ぐらいの言語です。

韓国語・朝鮮語の表記は、ほとんどハングルが中心で、それに漢字を併用しています。漢字使用については常に韓国文化界の中でも議論されてきました。時代によって学校で漢字を学んだり学ばなかったりしていますから、世代によって差があります。現状は、漢字に弱い世代が多いというのが事実でしょう。それでも漢字での筆談はある程度可能です。また、漢字表記は法律をはじめ重要書類や学術論文などに依然として必要性が認識されているというのでも否定できません。

韓国での標準語は、一般に、現代においてソウル地域を中心に使われている言葉です。厳密に言えば、高低のアクセントに意味を付与しないソウル方言です。韓国では、済州島の方言を除いて、他の方言の間には無理なく意思疎通が可能ですが、外国人はやはり標準語とされるソウル方言が無難でしょう。本コースでは、より自然でだれにでも通じるような洗練され

た表現を学習することにします。

ハングルとは

では、ハングルとは何でしょう。ハングルは本来「大いなる文字」の意味です。朝鮮王朝の第四代国王である世宗を中心に学者たちによって1443年に創られ、1446年に訓民正音という名で公布された独創的な文字です。それまでは漢文を中心に一種の当て字といえる吏読〔イトゥ〕という不自由な表現方法しかなかったことから、ハングルの発明は、画期的なことでした。

ハングルの制字原理は、子音は発音器官の形をかたどり、母音は天(・)・地(一)・人(|)からかたどって創られました。子音が19個(基本子音は14個)と母音が21個(基本母音は10個)、合わせて40個(基本は24個)からなり、これらを組み合わせてハングルは表記されます。この組み合わせで、2000を超える音節表記ができるとされています。

ハングルは表音文字でかつ音節文字です。つまり二つ以上の字母を組み合わせて一つの文字を構成し、一文字は常に一音節になるということです。たとえば次のような構造から一音節になります。

アルファベット	n	+	a	=	na
ハングル	ㄴ	+	ㅏ	=	나
仮名	(子音)		(母音)		ナ

つまり日本語の仮名と同じ音節文字です。ただ一音節が子音字と母音字の組み合わせによって成り立つところが違います。したがって、子音字と母音字さえ覚えれば、どんな言葉でも読み書きができるということです。詳しくは「ハングルの書き方と発音」の節で学びましょう。

ハンゲルの文法

ハンゲルの文法は多くの面で日本語の文法と似ています。ですから、日本人にとって最も習いやすい外国語であるといえます。まず語順から見ると、ほぼ日本語と同じです。

例えば、[私はソウルに行きます] をハンゲルで言えば、[ナヌンソウレカムニダ] になります。これを更に詳細に分析してみると、次のようになります。

ナヌン ソウレ カムニダ
나 는 서울 에 갑니다

代名詞 助詞 名詞 助詞 動詞

ですから日本語で浮かんだ言葉をそのままハンゲルに置き換えればいいわけです。

上記の例文で見ると、日本の「てにをは」はハンゲルにもあり、類似していることがわかります。「私は」(나는=ナヌン)、「私が」(내가=ネガ)などの〈体言語尾〉や、「～です」(입니다=イムニダ)「～ます」(습니다=スムニダ)「～(すれ)ば」((하)면=(ハ)ミョン)などの〈用言語尾〉がハンゲルにもあります。また、次の例を見るとわかりますが、

「私にだけは教えてください」
나에게만은 가르쳐 주세요
ナエゲマヌン カルチョ ジュセヨ

のように体言や用言に様々な要素の語尾がくっつくことによって語形が変化していくのがわかります。ただ、ちがうのは否定を表す場合、日本語は否定語が用言の後ろにきますが、ハンゲルの場合は用言の頭にくるということです。この点は覚えておきましょう。

敬語の体系については、日本語のようにかなり複雑になっています。とりあえず、異なる点を見ると日本語が「相對敬語」であるのに対してハンゲルは「絶對敬語」です。つまり、日本語は自分の家族や自分の会社の上司のことを第3者に言うときには尊敬語を使いませんが、ハンゲルは、相手に関わらず目上の人には尊敬語を使います。たとえば、「わが社の社長様がこうおっしゃいました」というふうに言います。本文の中で自然に覚えることにしましょう。

その他、ハングルの特徴を挙げると、一つは、文章を表記する場合に単語ごとにスペースをあけて分かち書きをすることです。くっつけて書く日本語の文章になれた日本人にはなじまないかもしれませんが、分かち書きに慣れれば、むしろ文章が読みやすくなるともいえるでしょう。

もう一つの特徴は、漢字の読み方は一文字に対して一通りであることです。ただし「金」のように、人の姓を表すときは [キム] となり、単語の一部として用いるときは金曜日 [クムヨイル] と発音するように 2 通りの読み方をする文字もありますが、極めてまれです。

ハングルと日本語 CD 1

ハングルは言語系統で分類すると、日本語と同系のウラル・アルタイ語系のアルタイ語族に属しています。また、同じく漢字文化圏であったために言葉自体が同じ意味で使われたりするものもあります。単語によっては発音まで似たものもあります。こういった単語は日本語と関連づけて覚えると良いですね。

焼酎 — 소주 [ソジュ]	道路 — 도로 [トロ]
修理 — 수리 [スリ]	料理 — 요리 [ヨリ]
仮面 — 가면 [カミョン]	市民 — 시민 [シミン]
教授 — 교수 [キョス]	歌手 — 가수 [カス]
家族 — 가족 [カジョク]	地球 — 지구 [チグ]

また、漢字の略字表記は用いずに正字表記が基本です。

会 — 會	観 — 觀	画 — 畫
対 — 對	点 — 點	国 — 國
恋 — 戀	状 — 狀	実 — 實
気 — 氣	学 — 學	駅 — 驛
当 — 當	払 — 拂	医 — 醫

韓国にも日本語用のワードプロセッサ・ソフトウェアがありますが、漢字が正字になっているため見慣れない書類になってしまうことがしばしばあります。